

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 2月19日

【評価実施概要】

事業所番号	4075500548		
法人名	有限会社 ウェルハート		
事業所名	グループホーム 幸生園		
所在地 (電話番号)	福岡県宮若市龍徳 1488番地 (電話) 0949 - 34 - 7575		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2 - 2 - 51		
訪問調査日	平成21年2月5日	評価確定日	平成21年3月2日

【情報提供票より】(21年 1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17人	常勤	17人, 非常勤 人, 常勤換算 4.5人

(2) 建物概要

建物形態	単独型	新築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 50 円
	または 1日当たり		1200 円

(4) 利用者の概要(1月 15日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護 1	4 名	要介護 2	5 名		
要介護 3	4 名	要介護 4	3 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	1 名		
年齢	平均 83.4 歳	最低	73 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	江口内科クリニック・宮田病院 町立鞍手病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの母体は調剤薬局を経営しており、高齢者や家族の役に立ちたいとの思いでホームの運営を始めた。法人代表者の理想「自分も入所したい園作りを目指す」この思いを管理者、職員は共有しており、日々ケアに携わっている。ホームは閑静な住宅街と自然の緑の中に建てられ、開設当初は地域の住民からの反対があったが、ホームの行事や、地域の活動に参加することで徐々に理解を得ることが出来、現在は地域との交流が図られ気軽に声を掛け合う関係が構築されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では数項目の改善課題があったが、ミーティングや運営推進会議にて報告話し合いを行っている。できる項目から改善に向け取り組みを行っている段階である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が自己評価を職員に説明し、記入してもらい管理者が確認、まとめた。評価項目を記入することで、出来ていることとできていないことが確認できている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	概ね2ヶ月に1回開催しており、家族2名、民生委員、市老人福祉課担当者、ホーム関係者等の出席にて、ホームからの現状、外部評価の報告や地域からの情報収集を行い、ホームと地域の交流の場となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族が面会に訪問の際には管理者、職員が声をかけ意見や要望を表出しやすい心がけている。要望等があった場合は、管理者、職員で話し合い対応している。家族会はまだ発足していないが今後発足の予定がある。
重点項目	日常生活における地域との関連(関連項目:外部3)
	町内会に入会し地域の活動に参加している。ホームと地域の交流を図る機会も多く、ホームの餅つきの際には餅を配ったり、夏祭りには地域の方々を招待し、今では、近隣の方から野菜を頂いたり、気軽に挨拶を交わす関係となっている。また、介護保険制度で不明なことがあれば気軽に質問してもらえよう声をかけている。ボランティアの受け入れも盛んで利用者と共に交流を図っている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	開設当初に作られた理念「明るく、優しく、元気よく」を管理者、職員共に認知症になっても希望を持って穏やかに暮らせるホームを目指す。との思いを持ち日々のケアに取り組んでいるが、地域との関わり等が表れていない。		ホームの理念は分かりやすく理念に沿い日々暮らしていることは確認できたが、地域との関わりや、役目等を表す言葉を加えると地域の方々もホームの思いがわかりやすいのではないだろうか。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の暮らしの中で理念の実践に向け取り組んでいる。挨拶や笑顔でケアすることを心がけている。管理者は、ミーティング等で理念に添ったケアであるか確認している。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、地域の活動に参加している。ホームで餅つきをした際には近隣に餅を配ったり、夏祭りには地域の方々に参加を呼びかけている。また、介護保険制度に関して気軽に質問してもらえるような関係作りに取り組んだり、近隣の方から野菜等頂くこともあり、地域に溶け込んでいる。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について管理者より説明を行い自己評価項目を職員が確認し記入し管理者がまとめている。改善項目の報告や話し合いは行っているが、具体的な取り組みがなされていない。		改善項目への取り組みは現在検討している段階であるが、具体的な取り組み方を話し合い、外部評価の意義を再確認し有意義な活用をしていただき、ホームの質の向上に努めることを期待する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回開催している。出席者は家族代表2名、市老人福祉課担当者、民生委員、ホーム関係者等となっている。今後は区長も加わる予定である。会議の内容はホームの現状や外部評価の報告、地域との情報交換を行っている。		

グループホーム 幸生園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広域連合に出向きまたは電話にて必要に応じ相談しており、パンフレット等も持参しホームの現状を伝えている。また、市の福祉祭りにて模擬店を担当し、市との連携を図っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用者があり、パンフレットを準備し、昨年1回勉強会を行っているが職員の周知度にばらつきがある。		研修の機会を増やし職員が周知理解に必要な人へ誰でもが説明できるよう取り組み、ホームの質の向上へ繋げていただきたい。また、パンフレット等は目に付きやすい場所に置くと必要な時に役に立つと思われる。
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回利用料の請求書に添えて利用者個々の暮らしぶりをホーム便りにて報告している。また、電話や面会時にも利用者の近況を報告している。金銭管理に関しては預かり金の収支、領収書を貼付し請求書に同封している。職員の異動があった場合は面会時に報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族からの意見、要望を表出しやすい環境を作り、要望等あった場合は話し合い対応している。運営推進会議やホームの夏祭りに参加していただき意見や要望を表出する機会を作っている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在2年間離職は無い。離職があった場合は、全職員が全利用者の状態を把握している為、誰でもが新職員に引継ぎを行える状況である。ユニット間での異動は必要に応じあるが、2ユニットで合同の行事やレクリエーションを行っている為、利用者へのダメージは殆ど見られない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。</p>	採用に関しては性別や年齢等条件は無い。試用期間は設けているがその間にホームに馴染んでケアが出来るよう配慮している。採用後は、職員の個人のペースを確認業務が遂行できるよう配慮している。また、趣味や特技を活かし日々の業務や行事を盛り上げ、職員其々が持ち味を出している。		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	日頃の生活の中で、言葉遣いや対応に関しては、管理者が職員に指導、助言している。ブロック研修等での人権学習に参加しホーム内で伝達研修を行っている。		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	外部研修は案内し出来る限り参加できるように調整しており、報告書等を閲覧する形で伝達している。内部研修に於いては、必要に応じ勉強会を開いているが定期的な開催するような計画が立てられていない。		ホームで何が必要かホーム全体で話し合い計画を立ててはどうか。学ぶ機会を増やし職員の質の向上に繋げていただきたい。また、議事録の内容も充実させ勉強会の内容が分かるようにすると職員が確認しやすいのではないだろうか。
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	近隣のホームとの勉強会や研修を月に1回行い、各ホームが当番制にしており職員は交代で参加している。また、職員が他のホームで1日業務を行う体験を実施する予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族の見学や体験入居をしていただいたり入院先にも面会に行き、できる限り本人の状態や生活環境を把握し不安の無いようホームに馴染んでいただけるよう取り組んでいる。入居当初不安定な様子があった場合は、一旦自宅へ戻り家族と共に再度話し合いをする等本人が納得できるよう配慮している。		
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている	利用者から昔の生活の様子を聞き生活の知恵を教えてもらうことがある。人生の先輩であることを念頭に置き対応している。野菜の収穫を職員と共にし農作業を教えてもらったことで利用者の出来る力を確認し寄り添い生活している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の意向や要望を担当者や計画作成者が聞き取り、どのように暮らしたいか把握しているが、アセスメントにはつきり記録されていない。		担当者や、計画作成者が聞き取りを行っているが、アセスメントにて確認できない為、日頃の様子や、言葉を記録として残しアセスメントを活用されることが望まれる。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向や要望を元に担当者、計画作成者が計画を立て全職員が確認している。主治医の意見等は受診時に聞き取っている。計画書の長期目標が記されておらず、短期目標の期間が定められていない計画書が見受けられた。		本人の暮らし方が分かる計画書であるが、長期目標、短期目標の期間を相談しながら設定し本人の目標に添い全職員がケアできるよう取り組んでいただきたい。また、担当者会議の記録に主治医の意見を記し関係者で話し合った計画書であることが分かるようにしていただきたい。
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期目標に沿ったモニタリングは3ヶ月に1回、ミーティングにて職員間で話し合い、利用者の状態の変化や職員が気付いたことはその都度計画作成者に伝えその都度話し合い計画を立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望に沿い可能な限り個別対応を出来るよう支援を行っている。本人の行きつけの理美容室への同行や個別の受診等の支援、入院中の洗濯物の管理を行っている。また、家族の宿泊の希望があれば可能である。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望にてかかりつけ医は其々であり受診の付き添い等を行っている。かかりつけ医による住診は週に1回あり、利用者の体調の変化等連絡を取り合っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に関する指針に基づき家族へ説明し、家族の確認と同意書を交わしている。本人の状態の変化に合わせ、家族、主治医と話し合いを行い方針を確認共有している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者との会話や対応には個人の尊厳を守り配慮しており個人記録は事務所の棚に保管している。利用者の名前や生年月日が分かるものの掲示があり写真掲示や掲載の承諾は口頭で交わされている。		ホームでの暮らしがよくなるホーム使いが作成されているが、写真等の掲載については現在口頭で了解を得ている。個人情報保護の観点から個人情報を使用する場合、書面で同意を交わすことが求められる。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかに1日の流れはあるが、本人のペースに合わせて、希望により過ごし、意思を表出しづらい利用者へは表情や仕草を汲み取り確認しながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房職員が献立を作成し、利用者が下ごしらえや、後片付け等職員と一緒にいるが、職員は食事介助のみで利用者と同じ食事を一緒に摂ることはしていない。		利用者と同じ食事を一緒に摂ることにより、食事の内容や利用者の好み等より一層把握することができ、家庭的な雰囲気が出るのではないだろうか。全職員と一緒に摂ることが困難であれば、当番制にする等1人でも一緒に摂ることから始めては如何だろうか。
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間の決まり等なく自由に入浴できる。入浴を嫌がる利用者には、さげなく声をかけ気持ちよく入浴してもらうよう配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片付けや洗濯物畳み等利用者の出来る力を活かし役割が自然とできている。また、個別に生活リハビリとして特技や趣味を活かしている。季節ごとの行事や、ドライブ等気晴らしや楽しみごとの支援を行っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩やスーパーマーケットへの買い物等利用者の希望や要望にて支援している。また、出かけたがらない利用者へは庭で外気浴等を促し気分転換を図れるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は開錠し誰でも自由に入出入りできるようにしている。外へ出た利用者へは傍に付いて散歩と称し見守り、行動範囲等を確認している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年度は1回避難訓練を実施している。マニュアルに沿って避難場所や避難方法等確認しているが夜間想定での避難訓練等実施が成されていない。また、災害に備えた備蓄品等の備えが無い。近隣の方への協力依頼はしている。		マニュアルによる確認はしているが、火事を含め災害はいつ起こるか分からない。3月に予定している避難訓練は夜間を想定し利用者の安全に取り組み職員がスムーズに誘導できるよう訓練を繰り返し行うことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により栄養指導を受け、献立を作成し、食事を提供している。食事、水分摂取量は毎日記録している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節の花が飾られ、家庭的な雰囲気があり、リビングの窓も広く明るい日差しを浴びることができる。廊下には利用者の好みの絵画が飾られており、廊下も寒さを感じないよう暖房設備があり快適に過ごすことができる。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の居室は本人の馴染みの物や思いのある道具を配置し入所前からの生活が継続できるよう配慮している。また、個々に合わせ寝床の工夫がされている。		